

平成29年度第1回沼田市市民構想会議（会議概要）

- 1 日 時 平成29年6月27日（火）午後2時から午後4時
- 2 場 所 沼田市役所 北庁舎 第二会議室
- 3 出席者 委員18名（欠席4名）
アドバイザー 篠田 暢之氏
沼田市 市長、副市長、総務部長
（事務局：企画課長、企画係長）

4 会議内容

- (1) 開会（事務局）
- (2) 委嘱状交付 ＊＊＊＊＊ ＊＊＊＊＊ ＊＊＊＊＊ ＊＊＊＊＊ ＊＊＊＊＊
＜各委員へ市長から委嘱状を交付＞ ＊＊＊＊＊ ＊＊＊＊＊ ＊＊＊＊＊ ＊＊＊＊＊ ＊＊＊＊＊
- (3) 市長あいさつ

＜市長＞

本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

平成29年度第1回沼田市市民構想会議を招集させていただいたところ、皆様方には快く委員をお引き受けいただき、誠にありがとうございました。市民構想会議も今回で2期目となりますが、市民の皆様方の英知を結集して、これからの沼田市を築き上げていきたいという思いで、皆様にお集まりいただきました。是非、皆さまのお知恵を沼田市にお貸しいただき、これからの沼田市が取り組んでいくべき方向性を定めていただければ有難いと思っておりますので、よろしく願いいたします。

とりわけ、これからの沼田市をどうしていくのかと考えた場合、明らかな少子高齢が大問題として控えており、経済成長時代に次々と建設してきた公共施設等を、今後どうしていくかという大きな問題もあります。因みに今後40年間に、現在ある施設を維持するには3千億円のお金が必要になります。現在でも施設維持には11億円の改修費用がかかっております。これをそのまま進めていくと、年間78億円の費用がかかり、本市の年間予算が239億円では立ち行かなくなることは明らかです。そのため、今後それらの問題をどうしていくのかについても、皆様にご議論いただきながら、今後の沼田市を健全な方向に発展させていきたいと考えておりますので、是非とも、よろしくご議論のほどお願いし、ごあいさつに代えさせていただきます。

- (4) 自己紹介 ＊＊＊＊＊ ＊＊＊＊＊ ＊＊＊＊＊ ＊＊＊＊＊ ＊＊＊＊＊
＜各委員による自己紹介＞ ＊＊＊＊＊ ＊＊＊＊＊ ＊＊＊＊＊ ＊＊＊＊＊ ＊＊＊＊＊

＜アドバイザー（あいさつ）＞

私のプロフィールは資料添付として、事務局から配付して頂いているとのことですが、ご指名がありましたので、簡単に経歴を申し述べさせていただきます。

大学院終了後、そのまま大学教員として、研究・教育を主に仕事をさせていただきました。その間、いくつかの大学で教壇に立ち、退官後は専門性を活かし、こうした社会活動と取り組み、執筆活動をはじめ講義・講演活動をはじめ、各種セミナー講師

などをしております。

沼田市とのご縁は間もなく30年近くになりますが、そのご縁の始まりは沼田青年会議所とのご縁からでした。以来、度々、講演会にお招きいただき現在に至っています。専門は「哲学」ですが、研究の発展から「比較文化論」さらには各種の「社会分析」など、広範囲な領域にまたがる研究を現在も継続しています。

本日から市民構想会議が始まりますが、一期目もアドバイザーとして同様に皆さまの議論に参画させて頂きました。市長さまのご挨拶にもありましたように、沼田市も少子高齢は現実であり、すでに始まっている日本の人口減少は、従来型の成長を基礎とする拡大型の市民サービス、行政サービスがこのままでは困難となっていくことは明らかです。沼田市におかれても「パラダイムチェンジ」（枠組みの改変）が急ぎ求められており、従来型の物事の進め方や考え方を改め、従来型ではない新たな時代を見据えた「枠組」を作りなおすところに沼田市も立たされています。

国立社会保障・人口問題研究所（「社人研」と略されています）のデータをご紹介しますと、2015年の1億2700万人の人口が、40年後には9千万人を切ってしまう。このままでは100年後には5千万人以下になると「社人研」では推計しています。こうした推計は頭で考えている以上に、実感として早くそれが到来するとも考えられます。その意味では、この市民構想会議では「先回りして」この沼田の魅力を失うことなく将来に備えた、豊かな地域設計を市民の皆さんの貴重なお声を最大限尊重し描きたいというお考えがあると思います。

机上の計算論ですが社人研のデータで推計では300年後には人口が450万人の日本になってしまうと警告しています。これは日本という国家存亡にかかわる問題であり、私はこれを『国難』の一つと考え『静かなる有事』にどのように備えるかという議論が待たなしであることがわかります。

私は『国難』について拙著にも記しましたが、その定義は①膨大な借金財政による「財政難」 ②出口なき「外交問題」の山積 ③多発する「自然災害」による社会的疲弊、の3点をあげています。このような問題群に絡みつくように、日本は少子高齢による「人口問題」が加速し顕在化していくのです。そのため「先回り」して、早めに手を打たないと、気がついたらとんでもないことになっていたという事になりかねません。国難と人口問題が提起する有事に対峙し、早めの対策を講じそれを実行に移していく決断が待たれています。そうでないとズルズルと対策が後手に回る悪循環に陥ります。出生数が激減することは避けられません。少子化は止めなければなりません。止めてから生まれた人が出産年齢になってからでないと人口増は望めず、少子化防止の効果には時間がかかりすぎる為、そのため直ぐにでも取り組まなければなりません。全国レベルで見てもこの問題は既に相当に手遅れになっています。

2つ目には「高齢者の激増」です。先ほど「老人クラブ」入会者数が本市でも少ないとのご報告がありました。私見ですが、長寿社会となっている日本で、そもそも「老

人」という名称が何時までも使われていることに多少の違和感を覚えます。世界でも稀にみる長寿社会を実現した日本では健康寿命の視点から、一説には年齢に7掛けで人生の中身を考える時代だともいわれています。この説に従えば60才の方は42才であり、70才の方は49才です。こう考えると「老人」という表現に違和感を覚える方々が増え、「老人クラブ」への入会に二の足を踏まれる方々が増えることも理解できるように思えます。

江戸時代では50才の坂を超えることが極めて珍しい時代に、元気にその坂を越された方に敬意を表して「ご老体」と呼んだ時代とはずいぶん異なります。そのため人生の「第二の青春」を楽しむ前向きな名称への工夫があっても良いのではと感じます。3つ目として、生産人口の激減が全国で起きており、産業の担い手の決定的な不足が起きるといえる問題です。政府は有効求人倍率の向上がアベノミクスの経済政策による成果だと強調していますが、私はそうではないと理解しています。むしろ産業界が団塊世代の大量退職に続き、その後は少子高齢による「労働の担い手人口の不足」に陥る危機感から求人確保を急ぎ、その結果、有効求人倍率を引き上げているに過ぎないと見ているからです。この3点こそ未来を構想する“静かなる有事”問題とみるべきなのです。沼田市も決して例外にはならない。だからこそ、この市民構想会議が人口減少を前提にどのような未来を描けるのか？官民一体の未来対策会議として、ご参会の委員の皆さんのご意見の集約が市民主体で進められることが期待されているのだと思います。では、そのためにはどう考えれば良いのかという問題になりますが、従来の拡大路線でやってきたことについて、未来に向けて、どこをどう「引き算」するかの議論が急がれるのです。「過去の成功体験を忘れ」、目の前の現実を正確に理解し将来この町や暮らしを市民目線から、どうしたいのかの議論を進めないと、手遅れどころではない悲惨なことになってしまいます。

今年、2017年には50歳以上の女性が女性人口の2人に1人となり「おばあちゃん大国」になったのです。

2018年には国立大学の倒産が予測されています。国立大学の倒産予測は、大学授業料の高騰が私学授業料と大差が無くなり始めており、昔と違って奨学金をもらいながら低額な授業料で国立大学を出るといった枠組みではなくなってきた現実などが重なっているからです。

2024年と言えばオリンピック開催後4年目には、全国民の3人に1人が65歳以上という信じられない事実が現実となるのです。

2027年、献血の減少により100万人分の血液が不足し、外科診療を受ける患者さんが血液不足で手術ができなくなると今から問題視されています。

2039年、日本中で火葬場が不足し、亡骸の処理が問題になります。

2040年、全国市町村の半数が消滅しています。そして市町村の消滅は当然これ以前から発生しているということになります。

こういう意味で本日の第1回沼田市市民構想会議を始まりとして、いわゆる人口オーナス時代（「オーナス」＝重荷）の課題を前に、皆さんの沼田市ではどうするのかということを経論賛成・各論反対ではなくて、総論を徹底議論する中で各論が解決されればと思います。アドバイザーという大変、重いご指名いただきましたが、今後ともよろしくお願ひいたします。

(5) 正副会長の選出について

<事務局>

正副会長の選出に移らせていただきますが、正副会長の選出までの間、市長が座長を務めさせていただくのでよろしくお願ひします。

<市長>

選出までの間、座長を務めさせていただくのでよろしくお願ひしたい。

それでは正副会長の選出について事務局から説明を願ひたい。

<事務局>

会長、副会長の選出につきましては設置要綱第5条の規定により、委員の互選により選出されることになっておりますが、宜しければ事務局に腹案がありますので、ご報告を申し上げ、ご協議いただければと考えております。

<市長>

事務局から説明がありました。

腹案があるということですが、腹案について報告させ協議することで宜しいか。

<委員>

***** 賛成の声 *****

<市長>

ご賛同いただけたので、事務局から腹案の報告をお願ひしたい。

<事務局>

事務局の腹案としましては、会長に沼田市社会福祉協議会の木村敬史さん、また、副会長は、国際ソロプチミスト利根沼田の吉野君枝さんにお願ひできればと考えていますのでよろしくお願ひいたします。

<市長>

事務局から腹案の説明がありましたが無何でしょうか。

<委員>

***** 異議なしの声 *****

<市長>

異議なしの声がありましたので、会長を木村敬史さん、副会長を吉野君枝さんにお願ひいたしまして座長を降ろさせていただきます。

<事務局>

木村会長、吉野副会長は座席の移動をお願いします。

***** 座席異動 *****

木村会長、吉野副会長からひとことずつあいさつをお願いします。

***** 木村会長・吉野副会長就任あいさつ *****

それでは、設置要綱に基づき会議の進行は会長をお願いします。

(6) 市民構想会議の概要説明

<会 長>

それでは「市民構想会議の概要説明」について事務局からお願いしたい。

<事務局>

***** 市民構想会議の概要について説明 *****

<会 長>

委員の皆さまからご意見、ご質問があればお願いしたい。

特になければ次に進めさせていただく。

(7) 議題

1) 本市の現状について

<会 長>

議題(1)の本市の現状について事務局から説明願いたい。

<事務局>

*** 人口推移を中心として本市の現状と計画等について説明 ***

<会 長>

事務局からの説明が終わりましたが、委員の皆さんから質疑等がありましたら
お願いします。

特になければ次に進めさせていただく。

2) 市民構想会議の運営について

<会 長>

それでは議題(2)の市民構想会議の運営について事務局から説明願いたい。

<事務局>

***** 市民構想会議の運営について説明 *****

<委 員>

PPP、PFIとは何か。

<市 長>

市が必要としている施設を従来のように市が直接整備せずに民間資金を利用して民間に施設整備と公共サービスの提供を委ねる手法で、その中から市も手数料をいただけることから、沼田市はお金をかけないで事業が実施出来て、なおかつ収入が入るということで“新たな財源を確保します”という表現になっています。

<委員>

昨年から引き続きの参加であるが、昨年度に提言したことがどのように市政に反映されているのかお話しいただきたい。

<市長>

昨年度、提言いただいた中からできるものについては本年度予算に組み込ませていただいておりますが、提言の中にはできないこともありますのでそれはご勘弁いただきたいと思っております。

<委員>

議論したことが無駄になっていないことが分かると参加する人のモチベーションも高まると思っておりますし、提言した人たちの中にも再度そこに関わって行こうと考える方がいると思うので、是非、施策への反映状況をお示しいただきたい。

<市長>

資料が整ったところでお示しさせていただくのでよろしく申し上げます。

<総務部長>

3月に提言書をいただいているので、それが具体的にどうできるのかについては検討しているところがございますので、直ぐにできるもの、直ぐにはできないものなどの方向性を近々お示しできればと考えております。

<会長>

それではここでアドバイザーの篠田先生からご意見、ご感想をお聞かせいただきたいと思っております。

<アドバイザー>

先ほども「人口オーナス時代」ということでいくつかの点について述べさせていただきました。日本の各地でこれから人口減少問題に端を発する事態から様々な難問が起きてくると申し上げました。その為『人口減少』を見据えたコンパクトな地域のつくり替えの自覚が先ず共通理解と求められます。つまり共通の土台に「人口問題」を置き、それを手掛かりにして多様な議論が交わされることが重要だと思っております。その理由は総論賛成・各論反対となる議論は可能な限り避ける方が良いと考えます。

小さくても豊かな地域や国はあり、こうした地域や国は戦略的な目標を掲げそれを自覚し、実践している地域や国です。このような事実があることは未来の沼田市を考えるうえで励まされます。その為、この構想会議では市民の代表として戦略的に沼田市がどのように変わったら良いか、皆さま方の忌憚のないご意見を存分に提起され、それを集約できれば、沼田市の未来は明るいだらうと思っております。

社人研の報告をかいつまんでお話しさせていただきましたが、別添資料でもお示しさせていただいたその意図は、一般論として今後の日本の人口問題を手掛かりに、記事に記されたケースに、沼田市が陥らないためにはどうしたら良いか考えるために配布させていただきました。例外なく現実となる近未来の日本の社会的な現実を、前向きに議論

できればと考えます。直近の現実や厳しい未来の姿を想定し、この市民構想会議で議論された提案内容が沼田市の輝かしい未来につながればと考えています。

少子高齢社会に対しては楽観的な意見があるのも事実です。AI（人工知能）を使った機械化やロボットを活用する方法、それから海外からの移住者（移民）を受け入れるという考えです。先ほど500名程の外国人がこの町にも居住しておられるとのお話がありました。けれども移民で簡単に解決できるような「まちづくり」というものは残念ながらどの国にもありません。結局はここに住み続ける人が責任を持つ以外にないということになります。

人口減少による税収減は避けられない事ですが、今後、起こり得る税収減でどれだけ豊かなまちを創造できるかについて、これからのまちづくりの知恵の出し処があるのだと思います。少子高齢の社会を前提に議論する際には、2つの極端な意見が出てきます。ひとつは、先ほども触れた“ピンチはチャンス”など非常に楽観的な意見であり、もうひとつは“何をしても無駄”という無気力な意見です。私は求めるべき解答は両極端の「真ん中」と考えています。解答は真ん中、つまり程ほどのところにあるという意味での議論が、この市民構想会議で進められれば、大変良いことではないかと思えます。

首都圏、東京は2025年に一気に人口が減り始めると予測されています。夫婦のどちらかが亡くなり死別し単身になったときに、残された片親が東京に住む子どもを頼って上京するケースが今後、多くなると考えられておりその場合、東京都民の4人に1人は高齢者になると推計されています。

それではこの地域は少子高齢による影響とは無縁かと言えば、それはありえません。人口オオナスの視点を抜きに沼田市もまた未来を考えることはできないからです。そのような問題意識を失うことなく議論を進めていただけると成果が出ると考えます。

<会 長>

篠田先生ありがとうございました。

それでは次の協議事項のその他について委員の皆さまから何かあればお願いしたい。

3) その他

<委 員>

会議の柱として、“委員会”のイメージ図があるが、どの様な形で進めていくのかお考えをお聞かせいただきたい。

例えば、篠田先生のお話にあった小さくても豊かなまちづくりを研究する委員会を直ぐにでも設置して、1年後に研究の成果を報告するなどの仕組みを考えてはどうか。

<事務局>

昨年度の市民構想会議にまちづくり委員会を設置し、調査・研究報告を進めて頂きました。昨年度は3つの委員会を設置して、各委員会が作成した報告書を全体会議で協議して、ひとつにまとめたものを提言書として市長にご提出いただいた経過がござい

ますので、今回につきましても、施設種別ごとあるいは見直しの方針ごとに分散して協議すべきであるということであれば委員会を設置して、各委員会からの報告を全体会議でまとめるという方法も考えられますし、また、全体でひとつのことを協議していく選択肢もあります。

次回、詳しい説明をさせていただきますので、その中でどのように検討を進めていくのかご決定いただければと思いますのでよろしく願いいたします。

<委員>

合併前の旧村単位に財産管理会有り、線下補償などの財産収入がありますが、本来は市の収入となるべきものだと思います。これからコンパクトなまちづくりを進めるためには、これらをひとつにまとめていくことも課題だと思いますが、市のお考えをお聞かせいただきたい

<市長>

誠に尤もなお話であります、その時の合併協議書等を細かく確認していかないと中々着手できない問題だと思いますので、次回までに企画課に確認させますので宿題ということにさせていただければ有難いと思います。

<アドバイザー>

補足説明ですが、日本では戦後の人口増加時代に経済成長があり、世界が瞠目した高度経済成長を果たしました。経済成長＝人口増ととらえる従来の見方に疑義が挟まれているのです。このように厳しく見ている研究者は、日本の経済成長が人口増加によるものではなく、日本人の切磋琢磨による絶え間ない「イノベーション」（技術革新）によって達成された成果だとみています。あらゆる問題に対する日本人の謙虚な創意工夫や熱意、あくなき誠実な取り組みが、優れた製品やサービスへのきめ細やかな結果を導き出し、世界が認める製品提供やサービスを可能にしたというものです。そうした社会的な機運と共に、戦後の人口が爆発的に増加したことから、量としての消費が喚起され「一億総中流」と言われた豊かさを、多くの人々が味わう時代を形成したのです。ところが従来とは異なり、人口減少を前に、量としての消費がなくなっていく「引き算」時代に、何が必要かと言えば、経済構造の根幹にかかわる変化に再び対応可能な私たちの意識変革が求められているのです。「引き算」の優先順位に対する多様な議論が、「引き算」されても豊かさを失わない為にも必要です。世界はヒト・モノ・情報が簡単に国境を越えていく「グローバル」な社会変化を迎えている時代ですが、ここで一番重要なことは分野を超えて『特筆すべき質』を持つことが重要なのです。沼田市が時代の流れに押し流されることなく、むしろ堂々と打って出る好機とする可能性を温存していく為にもこのような視点は重要です。

<会長>

委員の皆さんから他にご意見があればお願いしたい。

<委員>

検討テーマや会議の開催スケジュールなどがあればご教示いただきたい。

<事務局>

本年度は「公共施設等総合管理計画」について市長から検討依頼がありましたのでまずはこの検討をお願いしたいと考えております。また、本会議は総合戦略推進会議としても位置付けられていますので、今後、まち・ひと・しごと創生総合戦略及び同計画に基づく地方創生加速化交付金の効果検証をお願いしたいと考えております。また、その後は皆さまからのご意見や提言事項についてご協議をお願いしたいと考えております。

そして本年度のスケジュールについてでございますが、次回は「公共施設等総合管理計画」の詳細な説明をさせていただきながら、どのように協議を進めていくのかご協議いただく予定でございますので、必要があれば委員会の設置もありますし、協議の仕方によっても変わってくると思いますが、2回～3回のところでまとめていただきたいと考えております。

<委員>

年間で2～3回の開催ということか。

<事務局>

内容に応じて回数は変わる予定ですが、基本的には月1回のペースで考えております。また、委員会を設置した場合には、委員会内部で日程や時間などを決定していただくことで考えております。

<委員>

大枠でも日時を決めていただいた方が予定を立てやすい。

<事務局>

最後にご報告しようと考えておりましたが、次回は7月12日で調整しています。

<委員>

時間は何時からか。

<事務局>

午後2時からで考えています。

<委員>

個人的にはもう少し遅い時間、例えば午後3～4時頃だと有難いのでご検討いただきたい。

<事務局>

前回までは午後2時が良いという委員さんが多かったのですが午後2時に実施していた経過がありますが、できるだけ多くの委員さんにご出席いただける時間帯で考えてまいりたいと考えています。

<委員>

午後2時が良いという委員さんも多いので全体会議は午後2時からとして、委員

会が設置された場合には委員会内部で決定していただくことで良いと思います。

<会 長>

それでは全体会議は午後2時からとして、委員会は内部で決定ということをお願いしたい。

<委 員>

各分野あるいは各団体への意見をどのタイミングで言えば良いのか分らない。

<会 長>

本日は概要説明であり、次回から詳細説明があるということなので、ご意見があればその中で発言していただければと思います。

<委 員>

観光協会へのご意見、ご要望があれば随時お聞かせいただきたいと思います。

<委 員>

検討時間を短縮するため、会議資料をメールで送っていただきたい。

<事務局>

資料は事前送付させていただきますが、メールでの送付など対応できる部分は対応させていただきますと思います。

<会 長>

それではその他で何かあればお願いしたい。

<事務局>

先ほどもお伝えしましたが、次回の会議は7月12日（水）午後2時から第三会議室で調整していますので、決定したところで開催を通知させていただくのでご予定をお願いします。

また、次回は「公共施設等総合管理計画」から詳細についての説明がありますのでその中で今後の構想会議の進め方等も決めていただければと考えております。

<会 長>

それでは、他にご意見等がなければ会議を閉じさせていただく。